

参考資料:

■白井さゆり教授プロフィール



慶應義塾大学総合政策学部教授

専門分野は金融政策、マクロ経済、国際金融、日本・世界経済(欧州、米国、中国など)、ESGファイナンス、グリーン金融政策・金融規制など。国際通貨基金エコノミストや日銀政策委員会審議委員を歴任。慶應義塾大学教授を務めるかたわら、アジア開発銀行研究所のサステナブル政策のアドバイザーも兼任しアジアの気候政策や気候ファイナンスの動向をウオッチしている。また金融政策の最前線で活躍した経験を活かし、日本経済や世界経済についての様々な情報を国内外に向けて発信中。国内外のテレビなどでコメンテーター、解説者としても活躍。『SDGsファイナンス』(2022年、日経BP)、『カーボンニュートラルをめぐる世界の潮流～政策・マネー・市民社会』(2022年、文真堂)ほか英語の著作など多数。

■解説記事抜粋

1. 環境犯罪の中でも「森林の違法伐採」「鉱物資源の違法採掘」「有害廃棄物」の3つが最も深刻な問題であり、日本の銀行も環境犯罪のAMLに取り組んでいかなければならない。

4つの国際犯罪と環境犯罪規模内訳



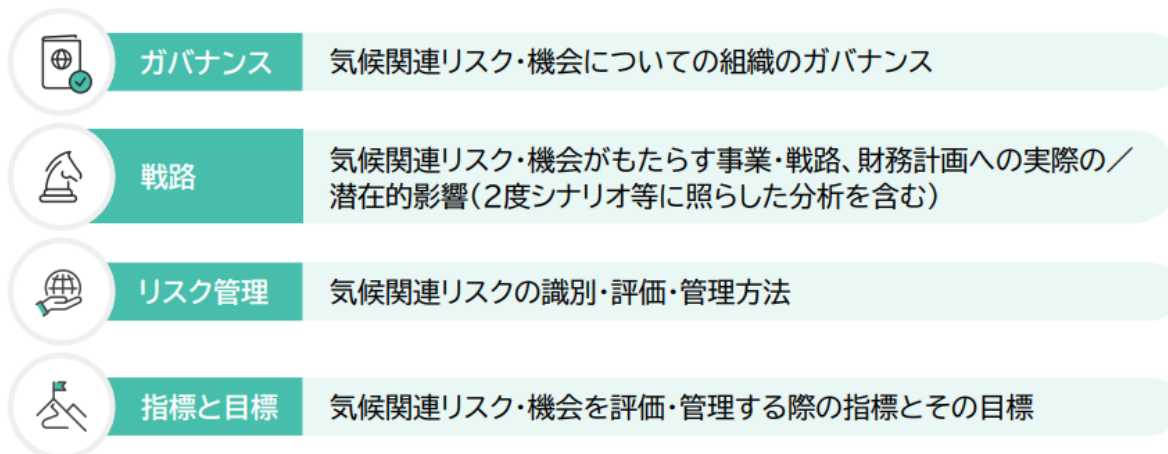
環境犯罪規模の内訳

- 違法な野生生物取引(IWT) (70～230億ドル)
- IUU漁業 (110～235億ドル)
- 違法な木材伐採・取引 (507～1,520億ドル)
- 違法な鉱物採掘、廃棄物取引・投棄など

出典：WWFジャパン「環境犯罪と違法な野生生物取引：日本の金融セクター向けガイダンス」2022年9月資料を基にフェナーゴ作成

4. ESG関連の情報開示の重要な規制が「TCFDガイドライン」と「ISSB基準」であり、さらなる情報開示を義務付ける動きが各国で拡大している。

TCFD 開示推奨の4項目



出典：経済産業省 資源エネルギー庁 「企業の環境活動を金融を通じてうながす新たな取り組み「TCFD」とは？」資料を基にフェナーゴ作成

本解説記事の内容を引用の際は、必ず「Fenergo(フェナーゴ) ESGコンプライアンス解説記事より」の記載をお願いします。